

計画概要

所在地：静岡県静岡市谷田395

建築主：静岡県

設計者：株式会社日総建、株式会社アトリエ・K

施工者：住友建設株式会社、木内建設株式会社、前田建設工業株式会社、鈴与建設株式会社、佐藤工業株式会社、株式会社佐藤工務店、安藤建設株式会社、平井工業株式会社、鹿島建設株式会社、イハラ建成工業株式会社

竣工：1989年3月31日

敷地面積：201,838㎡

建築面積：19,506㎡

延床面積：管理棟 5,355㎡、一般教育棟 6,362㎡、国際関係学部棟 6,081㎡、経営情報学部棟 5,050㎡、食品栄養科学部棟 8,878㎡、薬学部棟 17,328㎡、体育館 4,649㎡、教育文化施設棟 7,538㎡、その他8棟 2,499㎡

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造および鉄筋コンクリート造

※ 計画概要は受賞当時のもの

BCS

PRIZE-WINNING WORKS

BCS賞受賞作品探訪記

17

第三回受賞作品（一九九一年）

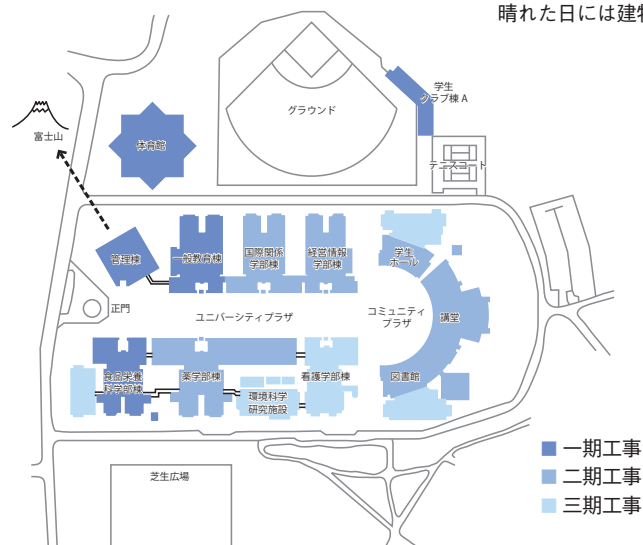
静岡県立大学

後編

各学部棟が取り囲むユニバーシティプラザと、開放的なコミュニティプラザ。前編では、キャンパスの魅力を生み出した二つの広場の構想を紹介した。後編では、建物に統一感をもたらす施工がいかに実現されたかを紹介する。



キャンパスの南西に広がる芝生広場。ここも県大の敷地で、市民の憩いの場になっている。晴れた日には建物の左手に富士山が望まれるが、取材当日は残念ながら雲に隠れていた。



日本古代の原風景と現代建築

静岡県立大学（県大）のキャンパスは、県の文化センターゾーンが有する自然に恵まれると同時に、富士山の風景を取り入れた計画がなされている。キャンパスの南西に広がる芝生広場は、一般市民に開放され、晴れた日は富士を遠望する憩いの場所でもある。なお、一般市民にはあまり知られていないが、この芝生広場の周囲は土手になっており、調整池の機能を果たす。集中豪雨などの折、河川の氾濫を防ぐために、地域一帯の雨水を一時的に貯める働きをする。

一方、建物ではおもしろい事実がある。メインエントランスに面した管理棟は中心軸に対して斜めに振られているが、その理由が富士山にあったのだ。つまり、二階の学長室や三階の特別会議室から富士山が見えるように北の方角に向かって建てられている。また、県外から教員として招いた研究者や文化人にも富士山を満喫してもらい、交流する場を提供したいと

いう県の要望で、学部棟の最上階に共同研究室が設けられた。

多くの施工会社が協力し合い、煉瓦積みの一貫を実現

県大の建設工事が始まったのは八六年四月。当初、工事は二期に分かれ、一期工事は一年の工期で管理棟、一般教育棟、食品栄養科学部棟、体育館などが、二期工事は八七年七月から一年五カ月の工期で、薬学部棟、国際関係学部棟、経営情報学部棟、教育文化施設棟



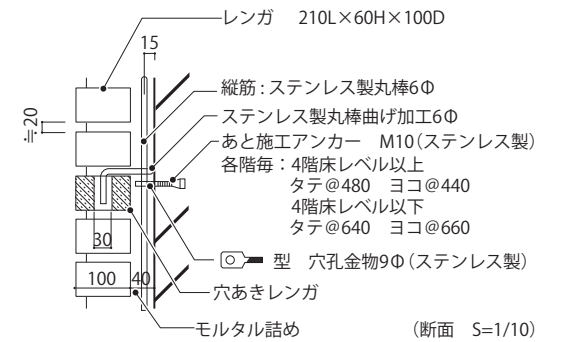
管理棟は地上3階・地下1階建て。1階中央は、県大の案内や情報を提供するコーナー。階段の上り口の手すり壁にBCS賞の受賞プレートが設置されている。

っている。取材当日も構内を案内しながら、点検が必要な箇所を見つければ、大学関係者に連絡している中西氏の姿があった。いろいろな要件で県大に立ち寄るたび、ついでに構内を見て回るのが習慣になっているという。建物を知り尽くしている視線は、わずかな変化も見逃さない。

指名コンペの設計案に中西氏が関わってから、もうすぐ三〇年になろうとしている。これだけ長期間一つの建築に寄り添い続けている例は少ないだろう。「各棟の施工会社も、当時の現場所長さんは引退されていますが、社員の方々に仕事が引き継がれて、県大の修繕の世話をしてもらっています」と中西氏。「県大では、建築主と設計者と施工者が三位一体となり、建物をつくりあげる大切さを学びました」と語るが、そこで培われた信頼関係は、学生や市民に愛され、長い年月とともに魅力を増しているキャンパスの建築を支え続けている。

などが建てられた。建築施工会社は一〇社、設備工事会社は三八社に及んだ。設計監理の現場総括だった日総建・中西氏は、工期の短中で、多数の会社で進める仕事を擦り合わせる調整業務に奔走する毎日を経験したという。

一期工事については、棟ごとに工区割りが必要で、それぞれ施工



図は外壁の煉瓦積張り工法。鉄筋コンクリートの建物本体にしっかりと施工されている。写真は外壁の直角の部分で、厚みのある本物の煉瓦が積まれていることがよくわかる。



竣工当時の県大の様子。上／メインエントランス。左手の建物が管理棟（3階建て）。こことピロティの地下に防災センターや機械室が設けられている。（提供：（株）日総建）下／コミュニティプラザからユニバーシティプラザを見通した風景。

がさまざまな工種ごとに行われた。後にBCS賞の選評で、外装、内装ともに「単一施工者かと思わせられるレベルに施工されていた」と、見事な統一感をつくりだしたことが評価されている。

また、「煉瓦積張り工法」は地震に対する安全性の確認が行われている。東京大学生産技術研究所の二次元振動台で、テストピースの加振実験を行い、「きわめてまれに起こり得る大地震にも煉瓦の落下がない」ことを確認した。

人々に愛され、長く生き続ける建築をフォローする

県大は当初の一期、二期工事のあと、新たに看護学部を設置するために九四年～九七年にかけて三期工事を行った。設計はそれまでと同じく日総建が行い、中西氏が引き続き責任者を務めた。その後の増築や模様替え、また、大学施設を管理する施設室と一体で「中長期修繕計画」を作成し、年度ごとの補修・改修の設計・監理を行

施工者より

出合い丁場の各社が競い合いつつ安全と品質確保をめざしました



住友建設株式会社（当時）
榎佳巳 Yoshinori Sakaki

当時はJ V（共同企業体）を組んで施工するのが盛んでしたが、県大の一期工事は、建物の棟数が多いこともあり、一工区を一社で担当しました。昔の言葉で言う「出合い丁場」です。

私も住友建設は管理棟の施工を担当しました。一般教育棟は木内建設、食品栄養科学棟は前田建設工業、体育館は鈴与建設が担当されました。この施工体制が、よい意味での競い合いを生んで、工期が短い中でも工事が順調に進んだことを記憶しています。安全施

工の徹底や、技術面でも他社に負けない優れた品質を確保しようと、各社が努力しました。

県と日総建の対応も的確かつスムーズでした。管理棟の地下工事をした際に大量の残土が出て、処分地を探したときにも県が速やかに対応してくださり、助けられました。特に大きな問題もなく施工できたことにたいへん感謝しています。

私は県大が竣工してから、近くを通るたびに立ち寄って、キャンパスを眺めてきたのですが、何年たっても施工直後と変わらない構造物の新鮮さを感じます。美しい自然に溶け込む落ち着いた風格も素晴らしいものです。

静岡県内では県大のほかにホテルや病院など、大きな建物を手掛けてきましたが、教育の先端施設である県大の工事を担当させていたいただいたことをたいへん誇りに思っています。

建築主・設計者・施工者 座談会

静岡県立大学の
建設当時を振り返って

新入生たちのガイダンスでにぎわう中、
建築主・設計者・施工者の3氏に静岡県立大学へお集まりいただき、
建設当時を振り返って語り合ってもらった。



建築主：渡邊輝元（中央）、設計者：中西克（右）、施工者：榊佳巳（左）

渡邊 三〇年前に県大の建設が始まったころは、JR草薙駅から大学の敷地の前まで茶畑が広がっていました。いまはすっかり住宅が増えましたね。

中西 県大のエントランス前の道路の向こう側に現場事務所があって、われわれ設計監理部隊が一〇人常駐し、渡邊さんたち県の職員の方々五人も同じ事務所内にいらして、毎日顔を合わせていました。コンペの頃から設計監理まで五年間大変お世話になり、その後も渡邊さんとはお会いする機会があるのですが、榊さんとは、管理棟の工事以来、初めての再会です。

榊 そうですね。じつは管理棟の工事で苦労したという記憶がないですよ。官公庁の工事にはいろいろと指定が多いものなんです。これがしつかりした形で伝わってこないと施工側は戸惑うことになります。それが県大では静岡県と、日総建のコミュニケーションが非常によくと

れていて、何でも短時間で回答をいただくので、工程に影響するような問題がなかったんです。

中西 私のほうは施工会社が多かったので、打ち合わせに忙殺されて、最年長だった榊さんにも怒鳴られた覚えがありますよ。
榊 そんな時に、中西さんは若かったけれども、物事をたいへんの確に処理されるので、非常に信頼していました。

中西 管理棟は傾斜地の一番下側で地下工事もあったのでそれなりのご苦労はあったでしょう。

榊 しいて言えば、地下の工事中も傾斜地の上の方から水が集まってくるので、排水量が多かったことですね。それから、管理棟と食品栄養科学部棟を三階部分で結ぶ渡り廊下のコンクリート打設には気を使いました。

中西 下がピロティで抜けていますからね。

榊 はい。階高が二階分あり、支保工を斜面にセット、渡り廊下が長いためコンクリート打設

時に荷重が偏心を起こさないよう慎重に施工しました。

渡邊 私は竣工直後に嬉しい体験をしたんです。作家の曾野綾子さんが来られ、校内を案内したときに、エレベーターに自動音声案内がついているのに気づかれて「これはいいですね」と評価してくださったことが忘れられません。視覚障がいを持つた学生が将来入学することを見据えて、日総建の提案で実現したんです。

中西 エレベーターは車椅子にも対応していますし、各棟を結ぶ回廊も段差をなくしています。

渡邊 当時はまだ建築のユニバーサルデザインがあまり進んでいない時代でしたから、その意味でも開かれた県大を実現したといえるでしょう。

榊 友人・知人のお子さんが県大のキャンパスに憧れて入学したといった話を聞くと、施工に関わったものとして本当に嬉しく思います。